

- I. 決算概要
- II. 当面の成長戦略



代表取締役社長
丹羽 俊介

東海旅客鉄道株式会社
2026年10月29日

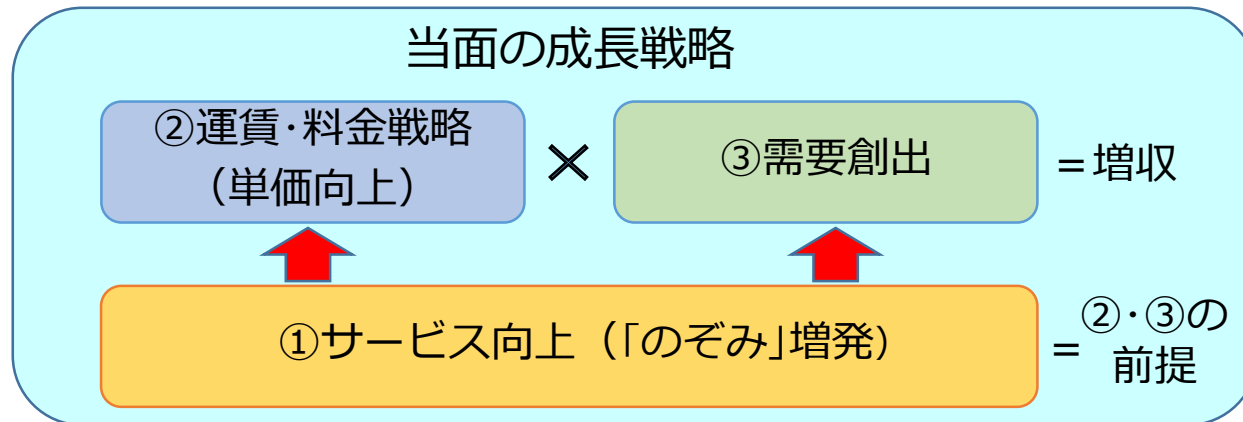
- 2027年3月期 第2四半期(中間期)は、単体・連結ともに増収・減益の決算
- 上期の運輸収入は、前年同期比で+1%
 - ・ 大阪・関西万博 : ▲5%
 - ・ 国内（ビジネス・観光等） : +5%
 - ・ インバウンド : +1%
- 営業費用は労務費の上昇等により増加
- 通期の業績は単体・連結ともに収益・各利益を上方修正
 - ・ 運輸収入は上期の上振れ分を業績予想に反映し、下期は据え置き
- 決算実績等を踏まえ、株主還元は以下のとおりとする
 - ・ 中間配当・期末配当ともに期初の予想を1円上回る1株あたり17円
 - ・ 既に実施済みの約200億円に加え、新たに100億円を上限とする自己株式取得を実施

【当社を取り巻く環境】

- 当社の成長戦略の中心は東海道新幹線であり、これまでサービスを向上させ、ご利用の拡大を図ることで高い収益力を獲得してきた
- 一方で、インフレによりコストが増えても、現行の総括原価方式による上限認可制の下では、当社は運賃・料金の上限額の改定ができない

【当社の対応】

- インフレへの対応を経営の優先事項に位置付け、自社で実施可能な以下①～③の増収施策を力強く推進していく

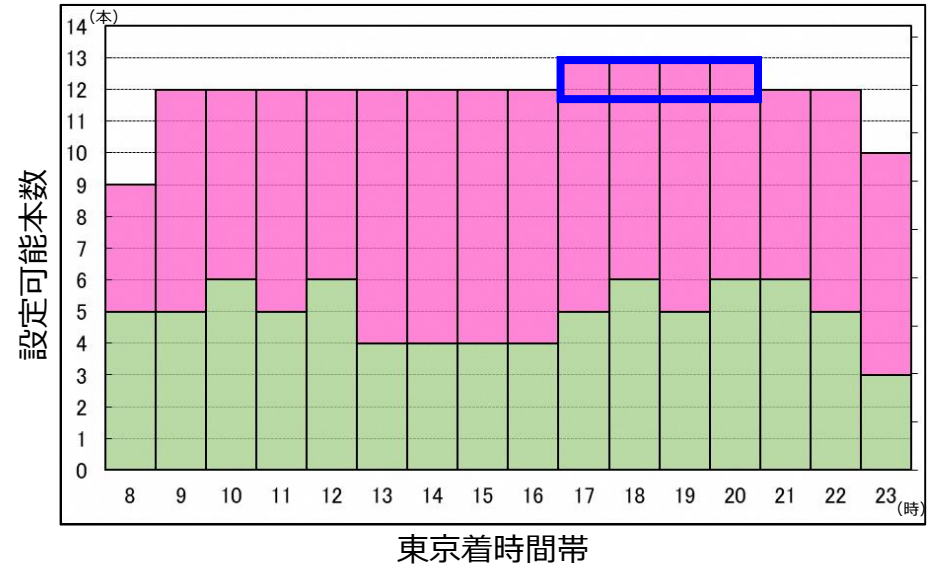
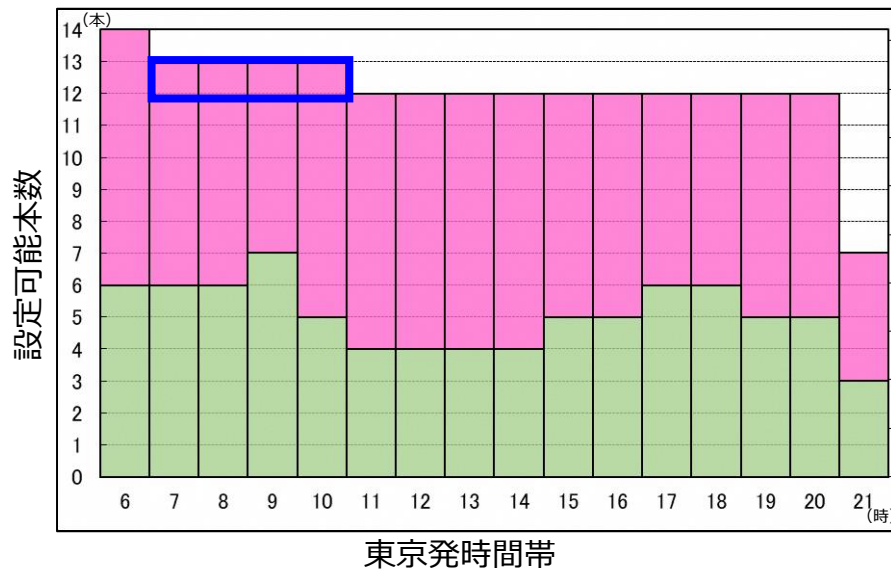


- あわせて、インフレによるコスト増を柔軟・簡便に運賃等に反映できる制度の導入、新幹線自由席特急料金の届出化に向け、関係箇所への働きかけを継続する

①サービス向上（「のぞみ」増発）

- 当社はこれまで、ピーク時間帯における「のぞみ」の増発を中心に運転本数を増やすことで、高い需要に応え、輸送量の増加につなげてきた
- 2026年3月から、ご利用の多い一部の時間帯に「のぞみ」を1時間あたり13本運転可能なダイヤを設定しているが、繁忙期には需要が旺盛で指定席をお取りいただけない時間帯が発生している

■「のぞみ」の設定可能本数 （■ 定期列車 ■ 臨時列車）



- 次回のダイヤ改正から「のぞみ」を1時間あたり13本運転できる時間帯を増やすとともに、将来的に14本に引き上げることを目指していく
- 増加する需要を確実に取り込み、収益の拡大につなげる

②運賃・料金戦略（単価向上）

- 当社はこれまでも、東海道新幹線のサービス向上に取り組んできたが、今後、さらに高品質で多様な輸送サービスの導入を進め、サービスに見合った価格を設定していく
- のぞみ・グリーン料金の改定で**年間500～600億円程度の増収を見込む**

	内容	実施時期	増収規模（通年）
「のぞみ料金」改定	「のぞみ料金」を認可上限まで引上げ 【例】東京～新大阪における「のぞみ料金」 （現行料金）東京～新大阪 320円 （認可上限） " 1,020円（+700円）	2027.7	350～400億円／年
「グリーン料金」改定	グリーン車のサービス向上に合わせて「グリーン料金」を改定	2027.12	150～200億円／年

- Supreme Classを順次導入し、15年程度で年間約100億円の増収を見込む

	内容	実施時期	増収規模（通年）
Supreme Class導入	Cabin（個室）・Seat（半個室）導入を踏まえて、サービスに見合った価格を設定	Cabin 2026.10 から順次	15年程度かけて 約100億円／年
		Seat 2027 年度中	

③需要創出

- コロナ禍以降、コンテンツホルダーとの連携、イベント誘致、訪日外国人向け販売促進等に取り組むことで需要を創出してきた
- 中でもイベント誘致について、これまで主に開催決定済のイベントを当社沿線に誘致してきたが、今後、

- ・ 毎年開催する大規模イベントを当社沿線で追加開催
- ・ スポンサー協力等によるイベント自体の新設

等により、沿線でのイベントの開催等に強く関与することで、人流を生み出し、新幹線の利用を増加させることに挑戦していく

(実施に向けて調整中のイベント例)

案件	実施時期	増収額 (イメージ)
東京で定例開催されている食イベントを京都でも開催	2027.1	数千万円～ 数億円/回
九州で定例開催されている物流展示会を名古屋でも開催	2027.6	
大手音楽レーベル、メディア等と連携し沿線でコンサートを新設	2026.12以降順次	



dancyu祭in京都
(2027.1予定)

Ⅲ. 輸送動向

Ⅳ. 2027年3月期 第2四半期(中間期)決算概要

Ⅴ. 2027年3月期 業績予想

Ⅵ. 株主還元

Ⅶ. 中央新幹線計画の状況

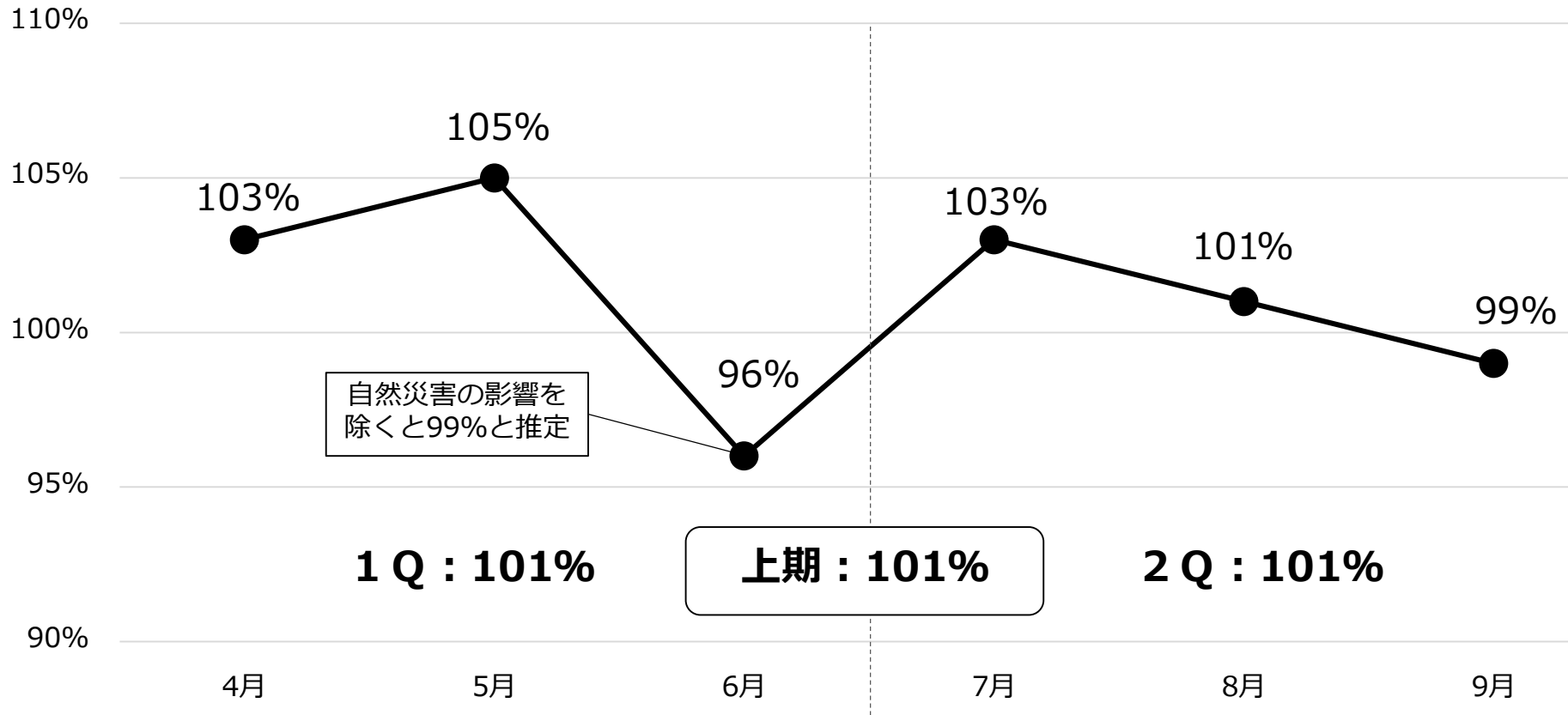


代表取締役副社長
木村 中

東海旅客鉄道株式会社
2026年10月29日

東海道新幹線のご利用状況

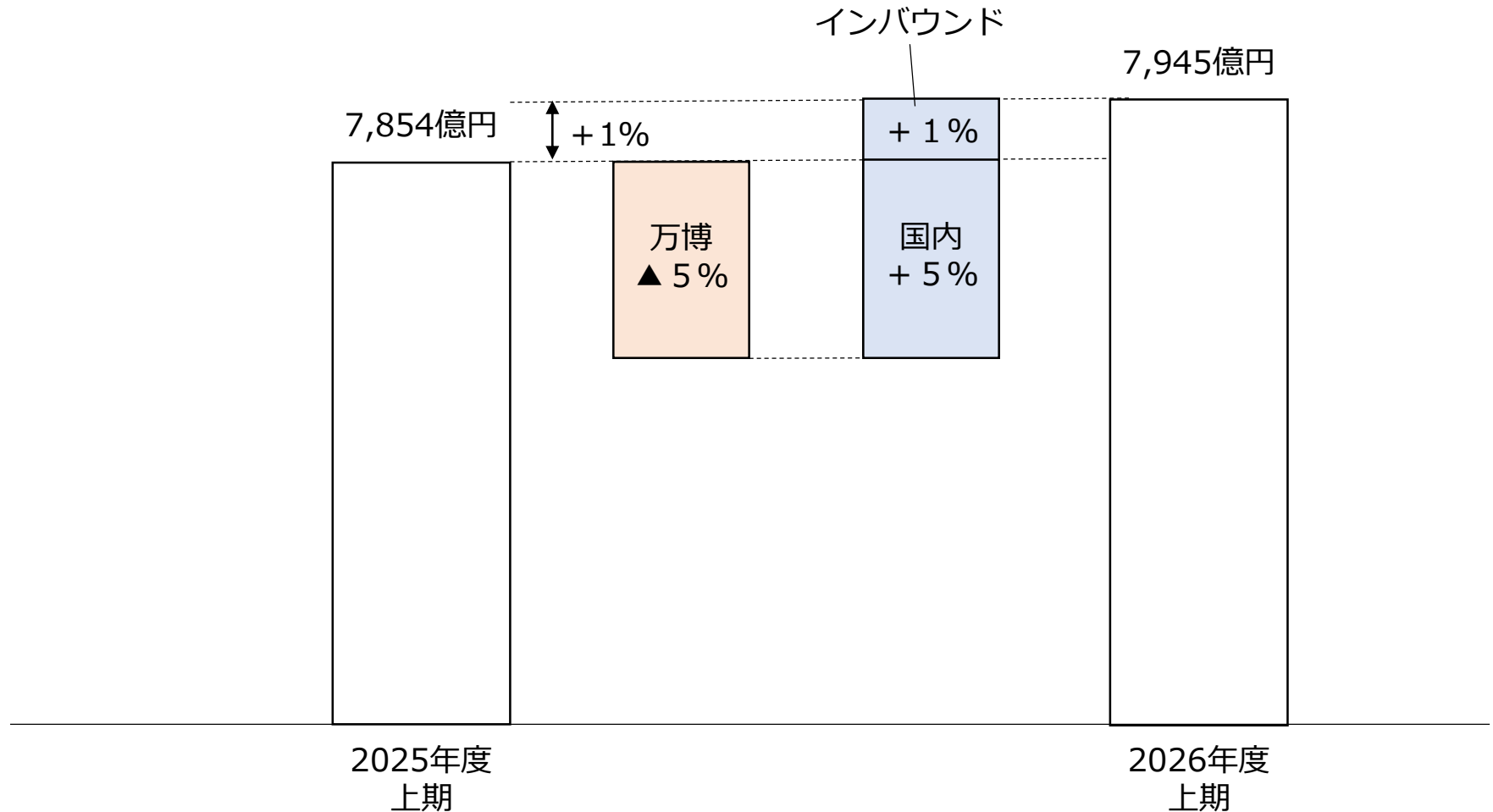
■ 東海道新幹線のご利用状況(東京口断面輸送量、2025年度比)



- ご利用が堅調に推移し、上期の輸送量は万博が開催された2025年度を上回る
- 一部時間帯において「のぞみ」を1時間に最大13本運転するダイヤを活用（上期で19日設定）する等、弾力的な列車設定により旺盛な需要を取り込み
- 「押し旅」キャンペーンの展開や「貸切車両パッケージ」の販売等、需要の創出に向けた諸施策を推進

運輸収入(東海道新幹線・在来線)

■ 運輸収入(幹・在)の比較

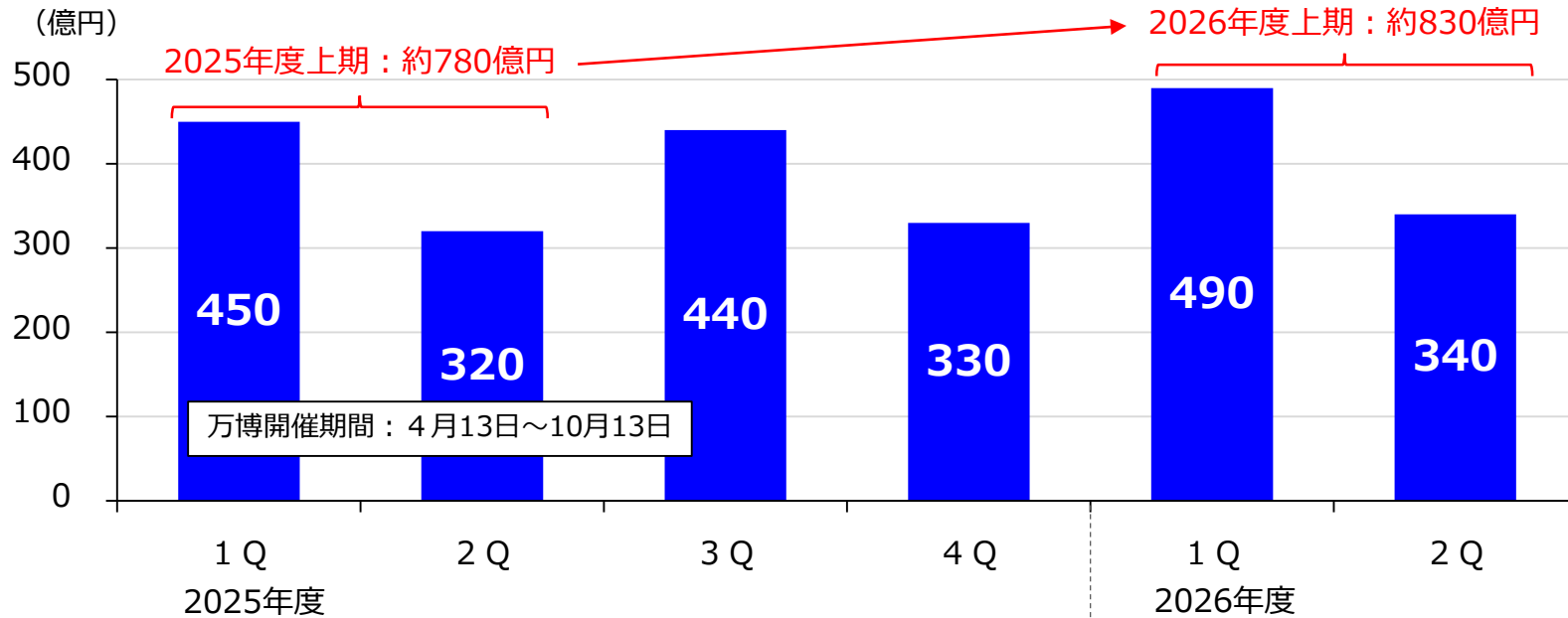


○ 上期の運輸収入は、2025年度比で101%

○ + 1 %の内訳は、万博▲ 5 %、国内（ビジネス・観光等）のご利用増 5 %、インバウンドのご利用増 1 %

○ 上期インバウンド収入（推計値）は約830億円（2025年度比：106%）

■ インバウンド収入（推計値） ※10億円未満切捨



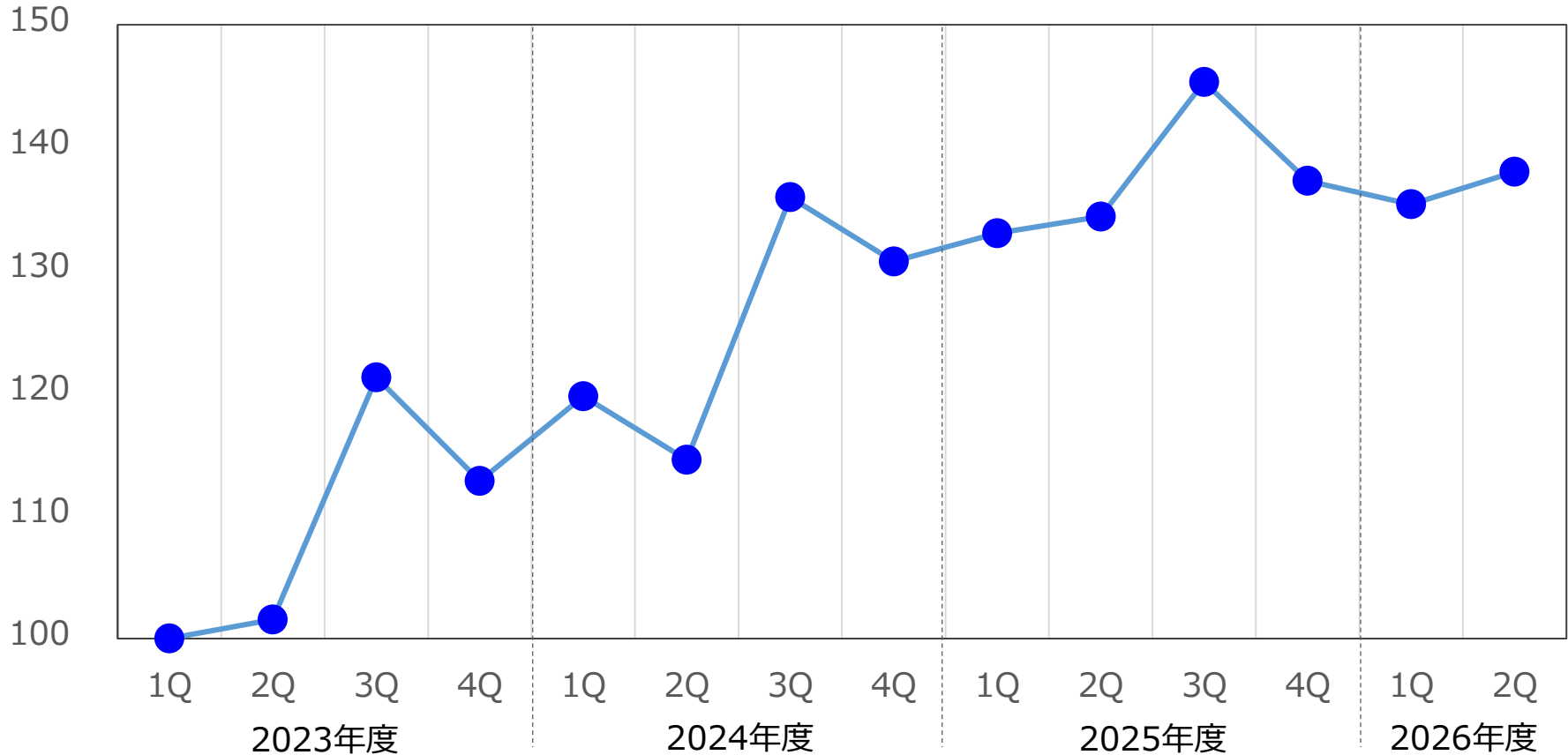
○ 沿線自治体等と連携した「Golden Route with the Shinkansen」等のキャンペーンを展開するほか、旅行会社とともに販売促進を行うなど、訪日外国人の需要を取り込み、増収につなげることに注力

Golden Route with the Shinkansen(2026.3開始)



○ 「エクスプレス予約」の主要な法人会員の利用実績は増加傾向

■ EX法人会員（主要200社）利用額の推移（平日1日平均、2023年度1Qを100とする）



○ 当社エリアへのMICE誘致、「エクスプレス予約」の法人会員拡大、CO₂排出量実質ゼロ化サービス「GreenEX」の展開等によるビジネス需要の喚起に取り組む

比較第2四半期(中間期)損益計算書【連結】

12

(単位 億円、%)

	2025年度 累計	2026年度 累計	増減	前期比	主な増減要因
営業収益	9,822	10,129	307	103.1	
運輸業	8,121	8,217	95	101.2	運輸収入の増
流通業	842	902	59	107.0	駅店舗・百貨店の売上の増
不動産業	266	287	20	107.9	駅商業施設の賃料収入の増
その他	591	723	131	122.3	鉄道車両等製造業の売上の増
営業費	5,281	5,658	376	107.1	
営業利益	4,540	4,471	△ 68	98.5	
営業外損益	△ 283	△ 212	71	74.8	
営業外収益	128	200	71	155.9	運用利息の増
営業外費用	412	412	0	100.1	
経常利益	4,256	4,259	2	100.1	
特別損益	△ 7	△ 48	△ 41	680.9	関係会社株式評価損の計上
税金等調整前中間純利益	4,249	4,211	△ 38	99.1	
法人税等	1,233	1,288	54	104.5	防衛特別法人税の適用開始による増
中間純利益	3,016	2,923	△ 93	96.9	
非支配株主に帰属する 中間純利益	35	38	3	110.2	
親会社株主に帰属する 中間純利益	2,981	2,884	△ 96	96.8	

(注) 営業収益の内訳は、セグメント別の外部顧客への売上高

比較第2四半期(中間期)損益計算書【単体】

13

(単位 億円、%)

	2025年度 累計	2026年度 累計	増減	前期比	主な増減要因
営業収益	8,230	8,329	98	101.2	
うち運輸収入	7,854	7,945	90	101.2	新幹線+78、在来線+11
営業費	3,908	4,114	206	105.3	
人件費	922	968	45	105.0	ベースアップによる増
物件費	1,835	2,008	173	109.4	
動力費	291	325	33	111.6	電力単価の上昇による増
修繕費	607	686	78	113.0	労務単価の上昇による増
業務費	935	996	60	106.4	システム関連経費の増、広告宣伝費の増
租税公課	227	230	2	101.1	
減価償却費	921	907	△ 14	98.4	
営業利益	4,322	4,214	△ 108	97.5	
営業外損益	△ 300	△ 233	67	77.5	
営業外収益	123	198	74	160.7	運用利息の増
営業外費用	423	431	7	101.8	
経常利益	4,021	3,981	△ 40	99.0	
特別損益	0	△ 39	△ 40	—	関係会社株式評価損の計上
税引前中間純利益	4,022	3,941	△ 81	98.0	
法人税等	1,188	1,212	24	102.0	防衛特別法人税の適用開始による増
中間純利益	2,834	2,729	△ 105	96.3	

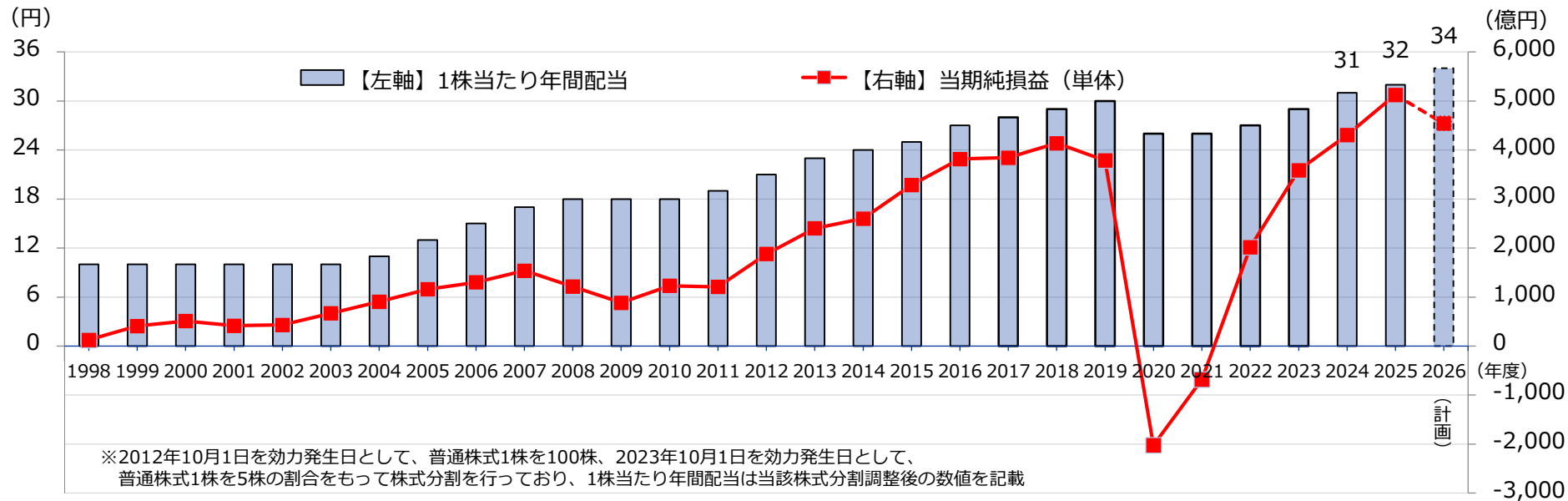
通期の業績予想【連結・単体】

14

(単位 億円、%)

	2025年度 実績 A	2026年度 業績予想(前回) B	2026年度 業績予想(今回) C	対前回予想		対前年実績	
				増減 C-B	比率 C/B	増減 C-A	比率 C/A
【連結】							
営業収益	20,062	19,930	20,490	560	102.8	427	102.1
営業費	11,760	12,910	12,920	10	100.1	1,159	109.9
営業利益	8,301	7,020	7,570	550	107.8	△ 731	91.2
経常利益	7,809	6,530	7,150	620	109.5	△ 659	91.6
親会社株主に帰属する当期純利益	5,528	4,470	4,870	400	108.9	△ 658	88.1
【単体】							
営業収益	16,632	16,310	16,730	420	102.6	97	100.6
うち運輸収入	15,853	15,540	15,940	400	102.6	86	100.5
営業費	8,888	9,720	9,670	△ 50	99.5	781	108.8
人件費	1,854	1,970	1,970	-	100.0	115	106.3
物件費	4,662	5,360	5,320	△ 40	99.3	657	114.1
動力費	565	640	690	50	107.8	124	121.9
修繕費	1,976	2,330	2,310	△ 20	99.1	333	116.9
業務費	2,119	2,390	2,320	△ 70	97.1	200	109.5
租税公課	465	450	460	10	102.2	△ 5	98.8
減価償却費	1,906	1,940	1,920	△ 20	99.0	13	100.7
営業利益	7,744	6,590	7,060	470	107.1	△ 684	91.2
経常利益	7,208	6,060	6,590	530	108.7	△ 618	91.4
当期純利益	5,126	4,210	4,550	340	108.1	△ 576	88.8

- 安全の確保に必要な投資を行いつつ、中央新幹線の工事費等を確保するために内部留保を蓄積していく必要があることから安定配当を継続



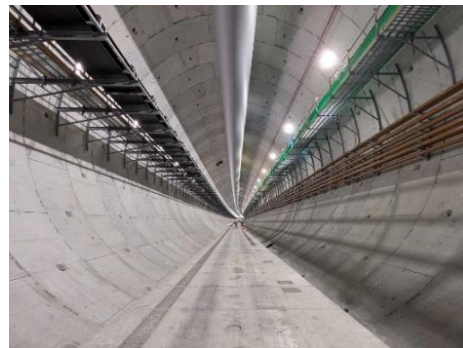
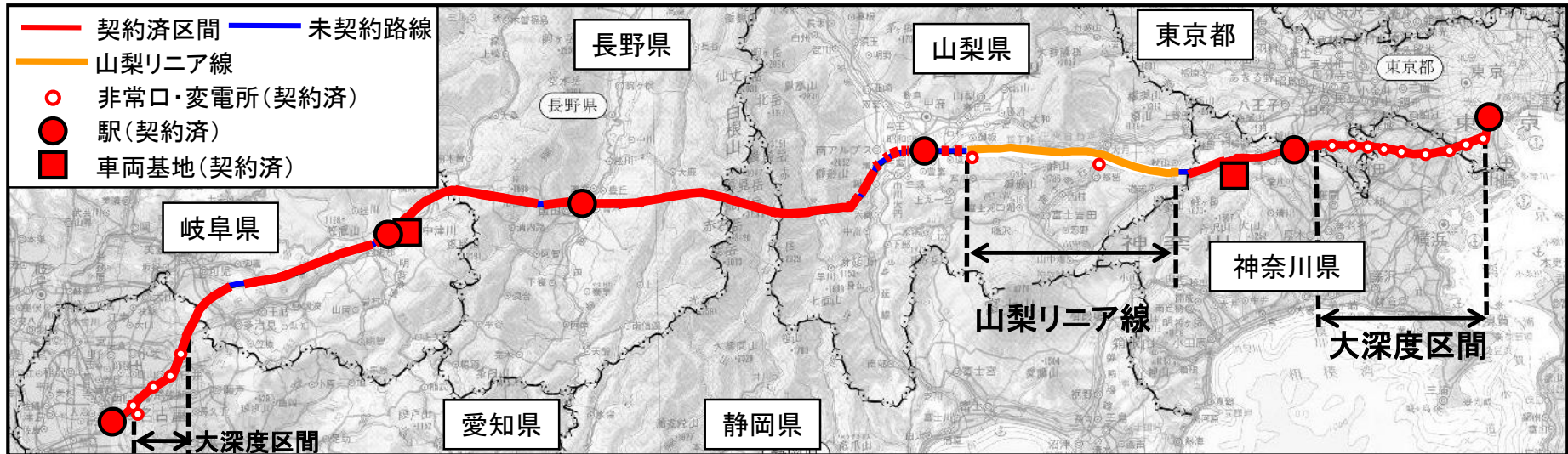
- 東海道新幹線のご利用が堅調に推移したこと、2026年度上期の運輸収入が想定を上回り、通期の業績予想を上方修正することを踏まえ、株主還元は以下のとおりとする

- ・ 中間配当・期末配当ともに期初の予想を1円上回る1株あたり17円
- ・ 既に実施済みの約200億円に加え、新たに100億円を上限とする自己株式取得を実施

【本体工事契約箇所（2026.9.30現在）】

※この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の100万分の1日本を複製したものです。（承認番号 平25情復、第310号）

※本体工事契約区間等は概ねの位置を示したものです。



第一中京圏トンネル
(名城工区)
本格的な掘進



岐阜県駅 (仮称)
高架橋工



第三南巨摩トンネル
本坑・品川方貫通



相模川橋りょう
上部工

本資料に記載されている将来の計画や見込み数値等は、当社が現在入手可能な情報に基づく見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。潜在的なリスクや不確実性の例としては、経済動向や事業環境、消費動向、当社および子会社における他社との競合状況、法律や規制等の変更等が挙げられます。

(参考)第2四半期（中間期）セグメント情報

18

【実績】

	2025年度 中間期 実績 A	2026年度 中間期 実績 B	対前年実績	
			増減 B-A	比率 B/A
営業収益	9,822	10,129	307	103.1
運輸業	8,183	8,282	99	101.2
流通業	885	950	64	107.3
不動産業	467	464	△ 3	99.2
その他	1,219	1,326	106	108.7
調整額	△ 934	△ 893	40	95.6
セグメント利益 (営業利益)	4,540	4,471	△ 68	98.5
運輸業	4,282	4,174	△ 107	97.5
流通業	71	83	11	116.7
不動産業	136	137	0	100.6
その他	62	86	23	138.1
調整額	△ 12	△ 9	2	77.9

【業績予想】

(単位 億円、%)

	2026年度 通期業績予想 (前回) C	2026年度 通期業績予想 (今回) D	対前回予想	
			増減 D-C	比率 D/C
営業収益	19,930	20,490	560	102.8
運輸業	16,210	16,630	420	102.6
流通業	1,900	1,940	40	102.1
不動産業	940	950	10	101.1
その他	3,120	3,240	120	103.8
調整額	△ 2,240	△ 2,270	△ 30	101.3
セグメント利益 (営業利益)	7,020	7,570	550	107.8
運輸業	6,510	6,980	470	107.2
流通業	140	160	20	114.3
不動産業	230	230	-	100.0
その他	170	230	60	135.3
調整額	△ 30	△ 30	-	100.0

(注) 1. セグメント別の営業収益は、外部顧客への売上高のほか、他セグメントへの売上高を含む

2. 「調整額」欄は、セグメント間取引の相殺消去

(参考)主な子会社の実績・業績予想(連結修正前)

19

○実績

(億円)

	営業収益			営業利益			経常利益		
	2025年度 2Q実績	2026年度 2Q実績	前期比	2025年度 2Q実績	2026年度 2Q実績	前期比	2025年度 2Q実績	2026年度 2Q実績	前期比
JR東海高島屋	298	326	109.4%	30	42	138.2%	33	45	136.2%
JRセントラルビル	169	173	102.2%	21	19	90.9%	22	20	92.0%
JR東海ホテルズ	141	144	101.8%	7	1	21.5%	8	2	26.2%
日本車両	462	470	101.9%	39	52	132.5%	43	57	132.8%
				日本車両	中間純利益		58	54	94.2%

○業績予想

(億円)

	営業収益				営業利益				経常利益			
	2025 年度 実績	2026 年度 計画 (前回)	2026 年度 計画 (今回)	前回 vs. 今回	2025 年度 実績	2026 年度 計画 (前回)	2026 年度 計画 (今回)	前回 vs. 今回	2025 年度 実績	2026 年度 計画 (前回)	2026 年度 計画 (今回)	前回 vs. 今回
JR東海高島屋	630	656	679	103.6%	74	77	91	116.9%	79	82	96	116.9%
JRセントラルビル	351	354	359	101.4%	39	26	23	91.3%	41	31	30	97.2%
JR東海ホテルズ	309	303	312	103.1%	24	3	1	50.5%	25	3	2	60.0%
日本車両	990	1,060	1,110	104.7%	114	86	125	145.3%	119	91	133	146.2%
					日本車両	当期純利益			140	75	96	128.0%

(参考)輸送量の推移(月次利用状況・多客期利用状況)

20

◆月次利用状況 Monthly passenger volume

(%)

期間 Period	新幹線 Shinkansen							在来線 Conventional Railway	
	東京口 Tokyo Gate						大阪口 Osaka Gate	特急等 Express	名古屋近郊 Nagoya Area
	合計 Total	のぞみ Nozomi	ひかり Hikari	こだま Kodama	平日 Weekdays	土休日 Weekends	合計 Total		
26/04	103	103	102	105	103	104	101	99	102
26/05	105	105	102	105	103	104	102	106	101
26/06	96	95	96	100	98	94	92	96	102
26/04-06	101	101	100	104	101	102	99	101	102
26/07	103	102	103	108	104	102	100	108	103
26/08	101	101	99	105	100	102	98	102	103
26/09	99	98	99	104	97	101	95	97	99
26/07-09	101	100	100	106	100	102	98	102	102
26/04-09	101	101	100	105	101	102	98	102	102

◆多客期利用状況（東京口） Passenger volume during the peak holiday seasons (Tokyo Gate)

・ゴールデンウィーク "Golden Week" Holidays

期間 Period	新幹線 Shinkansen				在来線 Conventional Railway	
	合計 Total	のぞみ Nozomi	ひかり Hikari	こだま Kodama	特急等 Express	名古屋近郊 Nagoya Area
4/24～5/6	104	105	100	105	98	106

・お盆期間 Summer Holidays

期間 Period	新幹線 Shinkansen				在来線 Conventional Railway	
	合計 Total	のぞみ Nozomi	ひかり Hikari	こだま Kodama	特急等 Express	名古屋近郊 Nagoya Area
8/7～8/16	101	101	99	105	102	105

(※) 新幹線・在来線特急等は特定の駅間における月累計断面輸送量の対前年比。

在来線名古屋近郊は自動改札集計による乗車人員合計の対前年比。※多客期においては定期外の乗車人員に限る。

Note: The data of the Shinkansen and Express is based on the total passenger volume of each month at certain points.

The data of the Nagoya area is based on the passenger ridership of each month counted by automatic ticket gates.

※The data of the Nagoya area regarding the peak holiday seasons is based on the passenger ridership excluding commuter passes.

◆商業施設
Commercial Facilities

	ジェイアール名古屋タカシマヤ、及び タカシマヤ ゲートタワーモール JR Nagoya Takashimaya and Takashimaya Gate Tower Mall	
期間 Period	売上高合計 2027年2月期 (百万円) Total Sales FY2026: 2026.3~2027.2 (Millions of Yen)	前年同月比 (%) YoY Comparison
26/03	21,021	106.8
26/04	17,712	106.1
26/05	19,669	118.0
26/06	18,697	109.5
26/07	18,679	107.8
26/08	17,377	105.1
26/09	17,637	107.4

◆ホテル
Hotels

	名古屋マリオットアソシアホテル Nagoya Marriott Associa Hotel		名古屋JRゲートタワーホテル Nagoya JR Gate Tower Hotel	
期間 Period	稼働率 (%) Occupancy Rate	前年同月比 増減 YoY Inc./Dec.	稼働率 (%) Occupancy Rate	前年同月比 増減 YoY Inc./Dec.
26/04	79.8	-0.9	83.0	-1.7
26/05	80.1	4.3	84.2	0.9
26/06	79.3	5.2	82.8	-1.9
26/07	81.3	3.0	86.3	1.4
26/08	73.2	-3.6	80.6	-5.5
26/09	84.6	7.4	83.8	1.3

(※) 各月の数値は速報値のため、確定値とは異なる場合がある。

Note: The number for each month comes from a quick estimation, which might differ from the actual results.